

2019年5月23日  
株式会社みずほ銀行

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構が発行する  
アジア初の「CBI プログラム認証付きサステナビリティボンド」への投資について

株式会社みずほ銀行（頭取：藤原 弘治）は、このたび、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（以下「鉄道・運輸機構」）が発行するアジア初のCBI（※1）プログラム認証付きサステナビリティボンド（以下「本債券」）への投資を決定しました。

サステナビリティボンドとは、その資金用途を環境改善効果がある事業（グリーン性）および社会的課題の解決に資する事業（ソーシャル性）の双方へ用途を限定した債券です。

本債券は、国際的な第三者評価機関であるDNV GL（※2）から複数の国際基準（※3）に適合している旨の検証を取得するとともに、環境改善効果については、DNV GLによる評価に加え、国際的なNGOで厳格な国際基準を設けるCBIから、一度の認証で継続的な債券発行が可能となるプログラム認証をアジアで初めて取得しています。

また、本債券により調達された資金は、持続可能で強靱な交通インフラの整備・環境にやさしい交通体系の整備等を通じ、国連の持続可能な開発目標（SDGs、※4）の達成にも貢献するものです。

〈みずほ〉は、総合金融グループとして知見を活かし、SDGs達成に貢献する事業への資金調達支援をはじめ、多様なソリューションの提供に積極的に取り組んでいきます。

※1：Climate Bonds Initiativeの略称で、2010年12月に設立された低炭素経済に向けた大規模投資を促進する国際的なNGO。「気候ボンド標準（Climate Bonds Standard）」や資金用途毎の「関連する気候ボンド技術基準」など、グリーンボンド発行にあたっての細部に関する規定を設けた原則を制定している。

※2：生命・財産、環境の保護を企業理念に掲げ、ノルウェー・オスロに本部を置く自主独立財団として1864年に設立された第三者評価機関。CBIから検証機関として承認された機関。

※3：気候ボンド標準2.1版・低炭素交通基準（CBI）、グリーンボンド原則・ソーシャルボンド原則・サステナビリティボンドガイドライン（2018年国際資本市場協会 ICMA）等。

※4：持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連持続可能な開発サミットにて採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が掲げる、加盟各国が2030年までに達成すべき17の目標と169のターゲット。

以上